



第72回日本皮膚科学会西部支部学術大会

会期：2020年10月24日(土)・25日(日)

会場：WEB開催

会長：佐山 浩二 先生(愛媛大学 大学院医学系研究科 皮膚科学 教授)

ランチョンセミナー10

本セミナーは**Web開催(オンデマンド配信)**です。
現地での開催はございませんのでご注意ください。

多汗症・ 無汗症の診療



座長

川崎医科大学 皮膚科学 教授

青山 裕美 先生

演者

長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科
皮膚病態学分野 教授

室田 浩之 先生

日時

2020年10月25日(日)
12時20分～13時20分

〈学会2日目〉
オンデマンド配信

聴講方法

- 本セミナーのご聴講は、日本皮膚科学会会員のみとなります。
- 本セミナーはオンデマンド配信のため、会期中を通じてご聴講いただけます。
- 聴講サイトにログイン後、参加登録証に記載されている「ID/Password」にてご聴講いただけます。
- 学会への参加登録はこちら ▶ <https://wjda72.jp/>



多汗症・無汗症の診療

長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 皮膚病態学分野 教授

室田 浩之 先生

発汗はヒトが進化の過程で獲得した重要な生理機能である。

発汗能力は人種、性別、年齢など様々な要因の影響を受ける。日本を含む東アジア地域の住人はEctodysplasin receptorの特徴的なハプロタイプを有するため活動汗腺数が多く、汗をかきやすい特性を持つことが示唆されている。この変異を持つ人種がただでさえ湿度の高い東アジアの環境を住処として選んだ理由を想像すると興味深い。いずれにせよ私たち日本人にとって汗をかくことは自然な事といえよう。

一方で発汗量の異常(多汗症、無汗症)は私たちの健康を容易に損ねる。発汗異常の診療では原発性／続発性の見極めが重要である。

本講では私たちが普段実施している発汗検査、全身精査の内容や方法を紹介しながら、これまで遭遇してきた続発性発汗異常の自験例を供覧する。治療についても私たちの実施してきた様々な介入結果をお示しする。多汗症はガイドラインのアルゴリズムに基づき治療を行なっているが、限られた治療選択肢に対して反応性が乏しく、難渋する症例も少なくない。多汗症においても安全・低侵襲・簡便という理想を満たす治療の開発が熱望されている。本講では多汗症の新規治療薬の展望も含めて紹介したい。